Weekly Eyes ～エネルギー Energy ～

エイチ・エス・フューチャーズ株式会社

2008/10/3

□ アナリスト週間相場予想

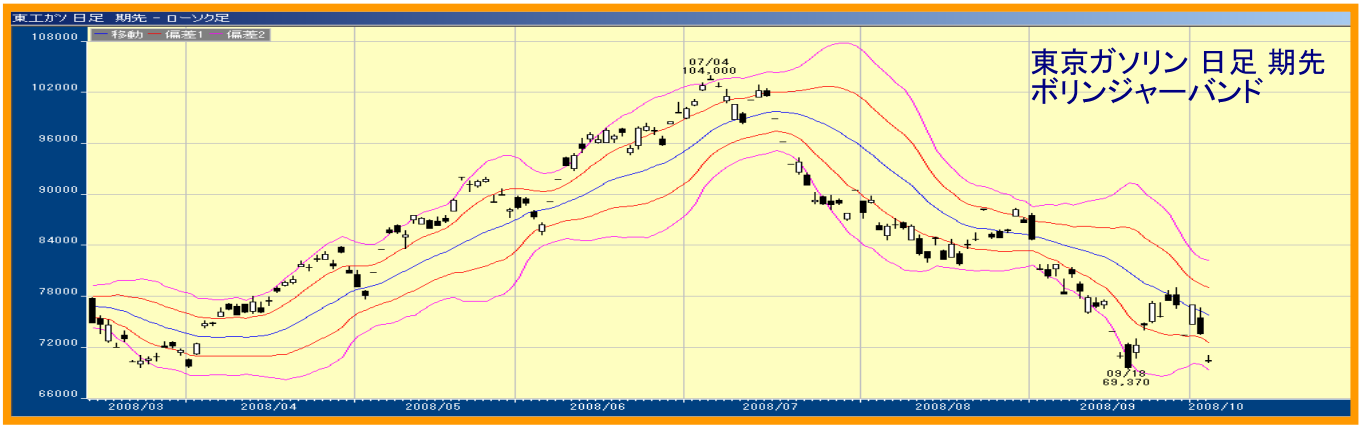
	原油 OIL	ガソリン Oil	灯油 Oil
江崎	↘	↘	↘
西	↘	↘	↘

Pick up News

〔注目スケジュール〕

10/3　米商品先物取引委員会（CFTC）建玉報告
8　原油・石油製品供給統計週報（石油連盟）
米エネルギー情報局（EIA）週間在庫
10　国際エネルギー機関（IEA）石油市場月報
CFTC建玉報告

□ テクニカル分析（担当：西 勝之）



エナジー3品は灯油・原油は9/18の安値を現在ブレイクダウン。唯一ガソリンがまだ直近安値を更新していないが日足チャートの形は悪化する様相を呈している。具体的にはボリンジャーの2Σと－2Σが3品とも一旦若干の収束を見せ、本日－2Σが下降を示している。このまま実線（日足）が月曜日に下降した場合、下降バンドウォークの可能性がでてきている。14本RSIはまだ40台であり、まだまだ売られすぎの感はない。エナジーセクター全体で弱さを示すテクニカル指標には事欠かない・・・。しかしながら現在の異常に高いボラティリティを考慮するとスプレッドで対応するのも一考の余地あり。期先のつなぎ足でクラックとガソ灯油のスプレッドを見てやると、ガソリン一原油の数値は目先下降気味、灯油一ガソリンの数値は現在上昇気味である。よってガソリンの売りに灯油か原油の買いを組み合わせるスプレッド戦略が有効であろう。少なくとも片の買いは入れるべきではないと当方感じる。（10/3前引け現在）

□ ファンダメンタル分析（担当：江崎 和弘）

NY原油相場は再度100ドルを割り込んだ。米金融安定化法を巡る不透明感や（下院では否決、上院では修正付きで可決、下院の判断待ち）、世界景気に対する懸念、実需の鈍さなどから買いが手控えられている。短期売買志向のファンドマネーが以前ほどリスクを取れず、中長期運用を主体とするインデックス型においても市場からの撤退が観測されている状況。一説では、買いベースの資金が7月以降で500億ドル流出したとの見方も提示されている。ざっと5兆円分の手仕舞いが出されたという計算で、コモディティ市場が全面暴落商状にさらされたのも頷ける内容だ。こうした動きには、アメリカン・インターナショナル・グループ（AIG）が保有していたファンドの存在もあろう。同社救済までの一連の動きの中で、ポジションが閉じられた可能性は非常に高い。

こうした外部要因の悪化に加えて、売り材料として見られている要因には、①ドル高、②需要低下の2つが挙げられる。①に関しては、米国の金融情勢が混迷度合いを高めるほどに、結果としてドル高になる不条理がある。銀行間ではお互いに相手を信用せず、ドルの流れが目詰まりを起こしている。手元流動性確保のために、リスク資産を売却してドルを確保する必要に金融機関は駆られており、これがドル高を呼んでいる。ドル高はドル建ての原油価格には押し下げ要因である。

また、②に関しては、国際エネルギー機関（IEA）が今月もまた下方修正するかに注目。米国内の在庫水準を消化日数で見ると、原油が23.2日（前週は21.7日）、ガソリンが20.3日（同19.8日）、ディスティレートが32.3日（同32日）といずれも増加、特に原油在庫の積み上がりが大きく出ている〔米エネルギー情報局（EIA）、10/1発表〕。金融市場が正常化しない限りは、こうした弱気な見方を覆すのは難しく、NY原油の90ドル割れも時間の問題と弱気に構えておく必要がありそうだ。

◆添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

許可RE0043（許可取得日2008年10月3日）